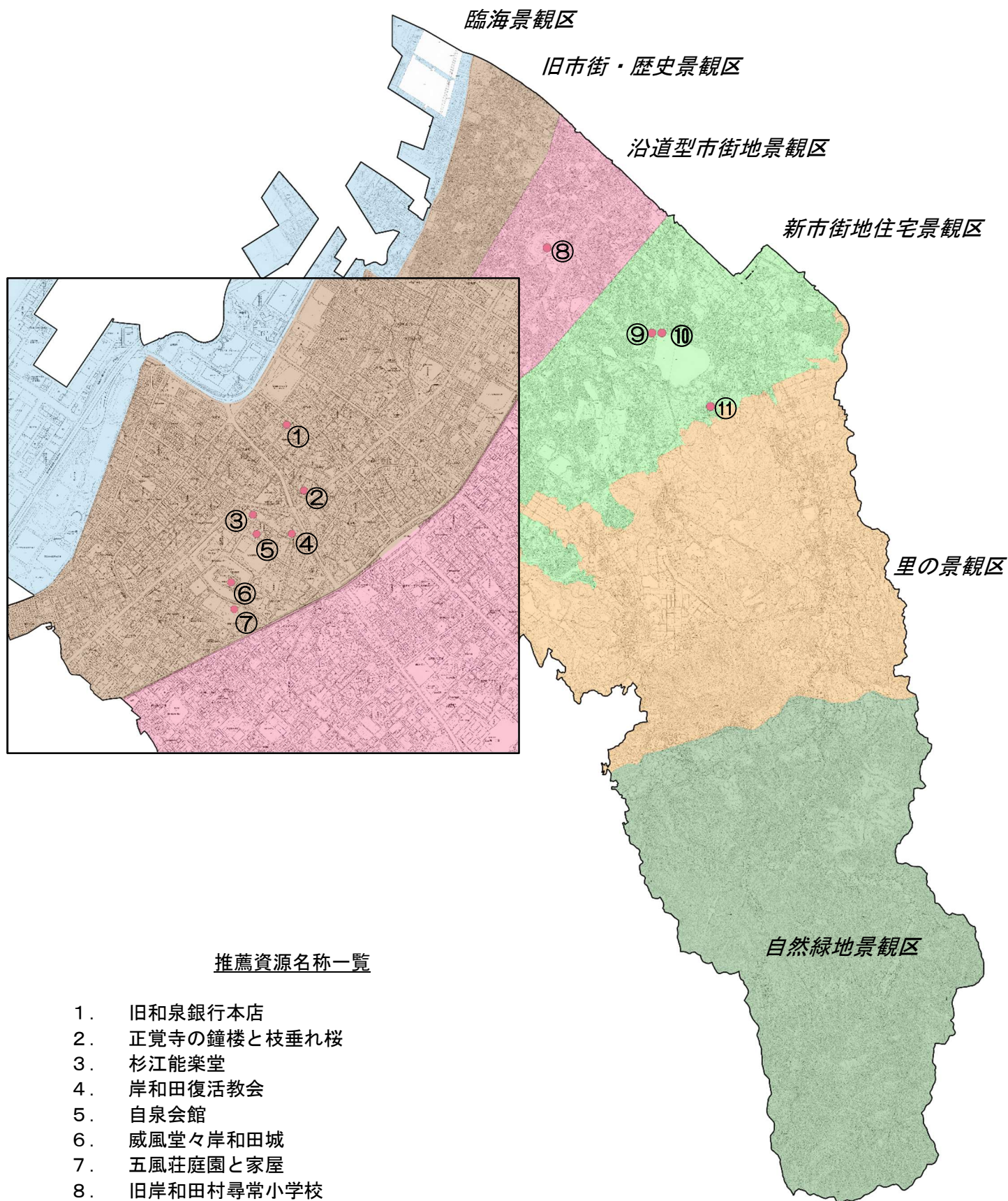


令和 4 年度

こころに残る景観資源（歴史・文化景観）11 件・
（その他 景観）6 件について

こころに残る景観資源発掘委員会

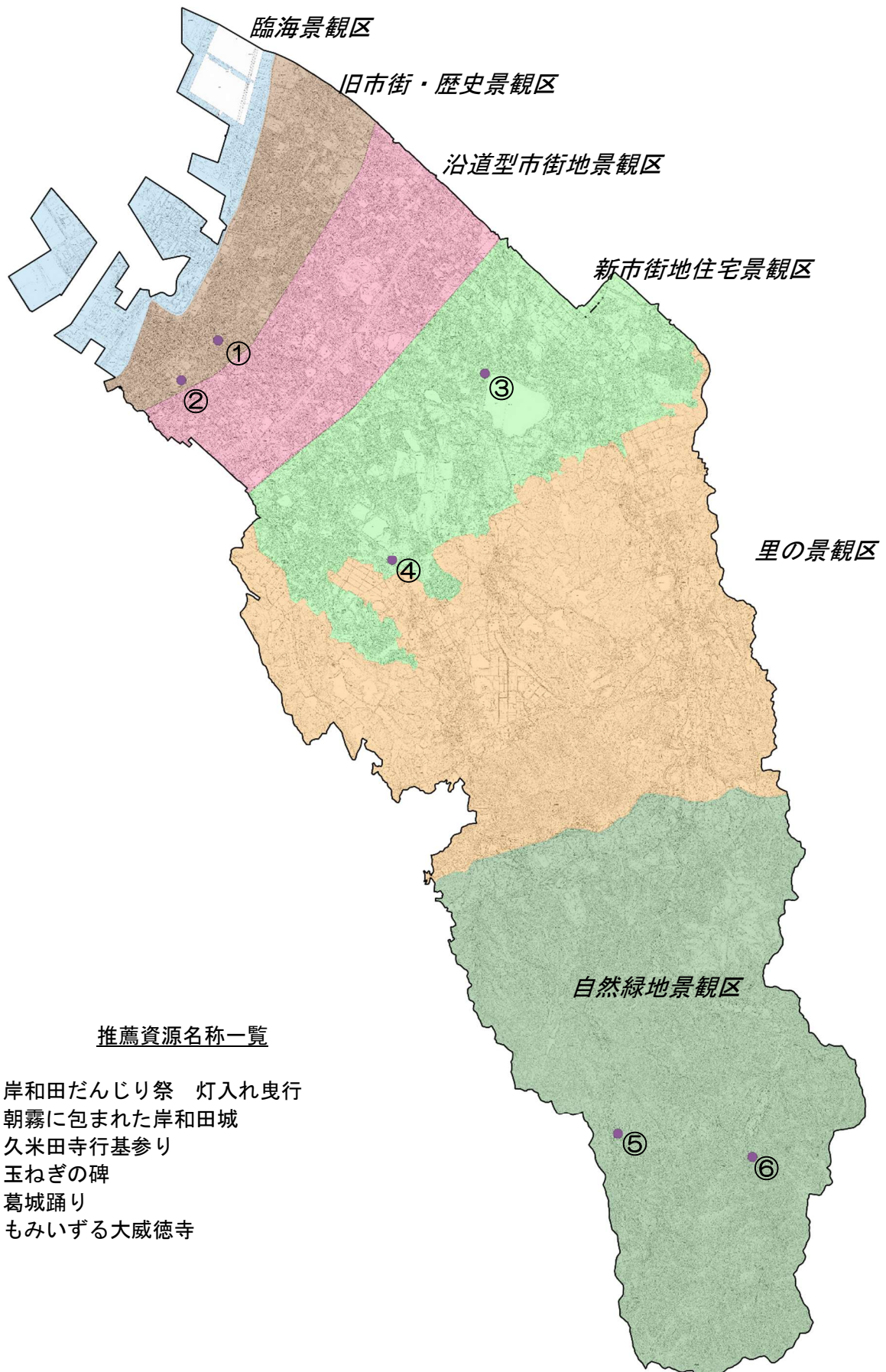
こころに残る景観資源（歴史・文化景観）の推薦箇所一覧



推薦資源名称一覧

1. 旧和泉銀行本店
2. 正覚寺の鐘楼と枝垂れ桜
3. 杉江能楽堂
4. 岸和田復活教会
5. 自泉会館
6. 威風堂々岸和田城
7. 五風荘庭園と家屋
8. 旧岸和田村尋常小学校
9. 久米田寺の多宝塔
10. 世界かんがい施設遺産の久米田池
11. 小金塚古墳

こころに残る景観資源（その他 景観）の推薦箇所一覽



推薦資源名称一覽


1. 岸和田だんじり祭 灯入れ曳行
2. 朝霧に包まれた岸和田城
3. 久米田寺行基参り
4. 玉ねぎの碑
5. 葛城踊り
6. もみいずる大威徳寺

推薦資源の詳細と講評

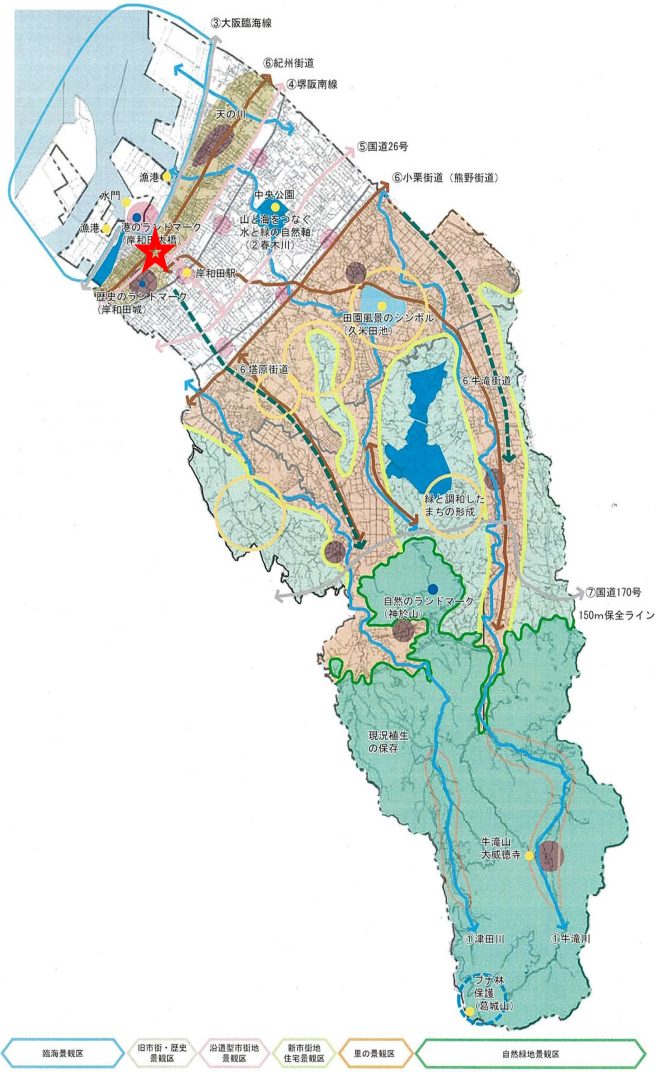
歴史・文化景観

① 旧和泉銀行本店


【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 中央校区



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	旧街道
景観配慮地区	—

■エピソード 応募 No. 22 「旧和泉銀行本店」
 昭和8年(1933年)竣工、施主寺田甚吉、設計渡辺節、施工藤木工務店と伝わる建物で、紀州街道沿いに多く残る近代銀行建築群の一つである。70年間複数の銀行店舗の時代を経て、2005年に有意の人々の努力により復元改修され、現在国登録有形文化財となっている現役のオフィスビルである。(74歳男性)

■講評
 現在、国登録有形文化財に登録されている旧和泉銀行本店は、1933年に完成してから2004年までの間、多くの金融機関が入店し営まれてきた。所有者の変更に伴いリノベーションされ、商業施設として古い建物をうまく現代に活かされている、岸和田の歴史と文化を色濃く感じさせる景観となっている。

② 正覚寺の鐘楼と枝垂れ桜

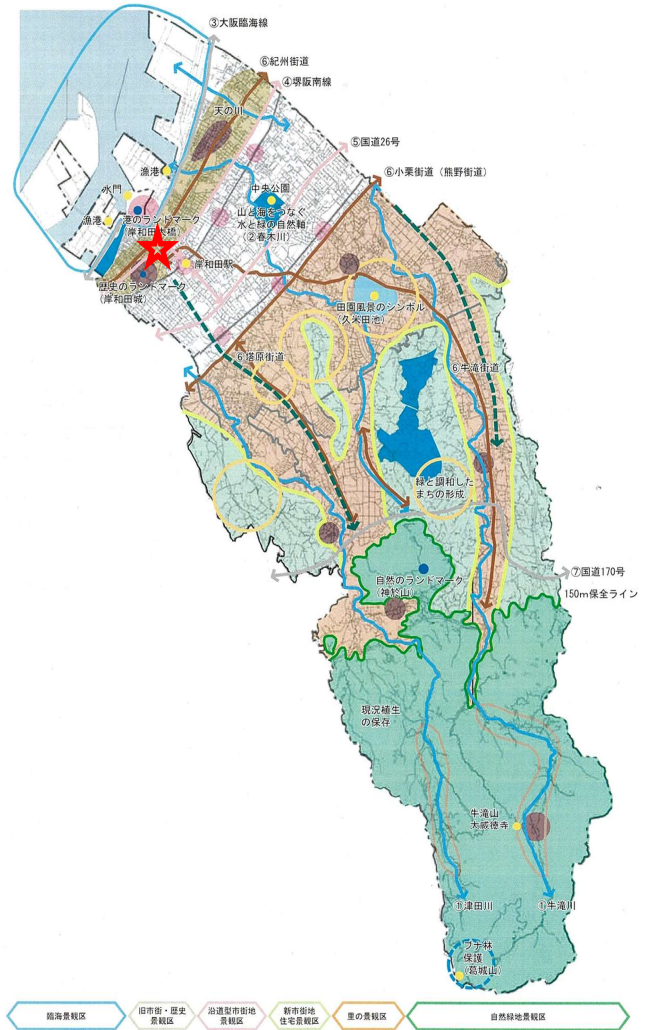
【写真】



【位置図】 中央校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	堺阪南線
景観配慮地区	—

■エピソード 応募 No. 38 「正覚寺の鐘楼と枝垂れ桜」

岸和田市内には桜を鑑賞できる場所がたくさんありますが、特にこの正覚寺の枝垂れ桜は美しく情緒深いので紹介したいと思います。鐘楼と桜の組み合わせは絵画の中の世界のように歴史を感じさせます。写真はあいにく雨天時に撮影したもので映えませんが、一見の価値がありますのでシーズンには是非足を運んでいただきたいものです。(36歳男性)

■講評

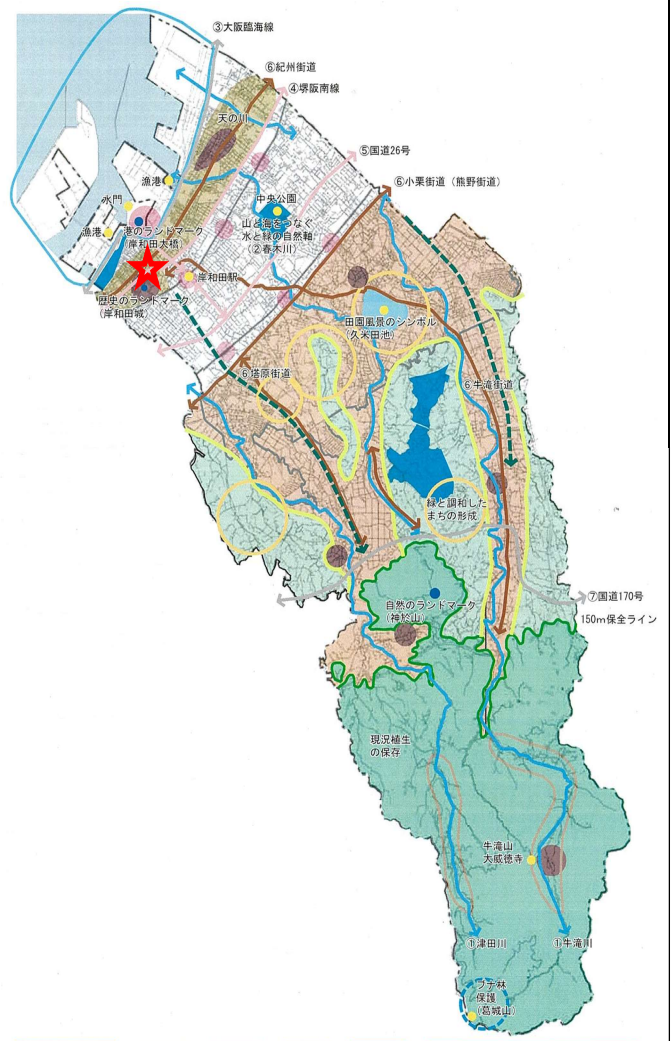
もとは紀州根来寺（和歌山県岩出町にある新義真言宗総本山根来寺）の末寺で「摩頂山圓通寺智光院」という寺院であった。密度のある境内にバランスよく鐘楼と枝垂れ桜が配置されており、その組み合わせとともに、除夜の鐘つきや花見といった地元の人に愛される文化とも相俟って、情緒あふれる景観となっている。今後も地域固有の魅力を感じさせる市民の誇りであってほしい景観である。

③ 杉江能楽堂

【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 城内校区



臨海景観区	旧市街・歴史景観区	沿道型市街地景観区	新市街地住宅景観区	里の景観区	自然緑地景観区
基本景観区域名			旧市街・歴史景観区		
景観軸			堺阪南線		
景観配慮地区			岸和田城周辺		

■エピソード 応募 No. 17「杉江能楽堂」

大学時代、当時の堂主谷口公一氏から謡曲を習った。最後の岸和田藩主岡部長職公揮筆の扁額「国華」が正面を飾る。大正6年の建立から百年を超える大阪府下最古の民間能舞台。現在レンタルスペースとしての設備を整え、新しい創作空間への道を模索している。2022年度国登録有形文化財に選定された。(74歳男性)

■講評

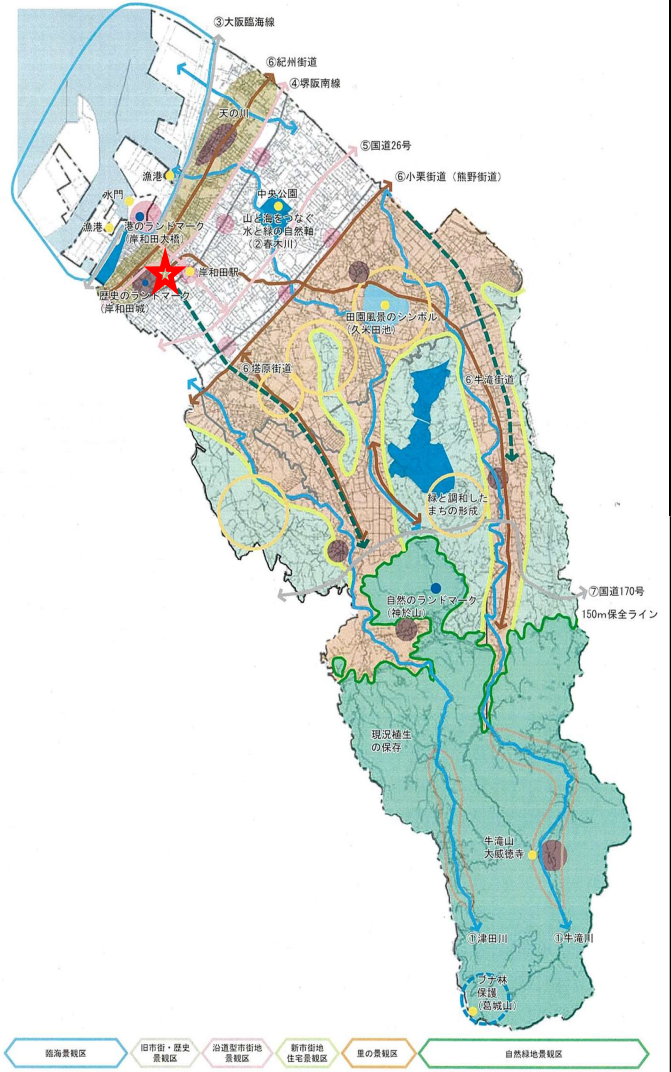
2022年に国登録有形文化財に登録された杉江能楽堂は、大正6年に設立され、現存する民間の能楽堂としては、100年の歴史を持つ府内最古のもので松竹梅が書かれている珍しい舞台になっている。現在では能の他に食事処やイベントなどにも利用されるなど歴史や文化を身近に感じる景観である。

④ 岸和田復活教会

【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 城内校区



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	旧街道
景観配慮地区	岸和田城周辺

■エピソード 応募 No. 20 「岸和田復活教会」

小学生の頃姉に誘われ、ウサギが画かれたゆで卵のプレゼントを目当てにクリスマスミサに参加した思い出がある。設立は古く明治34年の日本聖公会岸和田教会、昭和16年本町から現在地に移転、私たちは親しく「岸城町北の教会」と呼んでいた緑に囲まれた蒲洒な教会だが、地域の確かな歴史文化景観を形成している。(74歳男性)

■講評

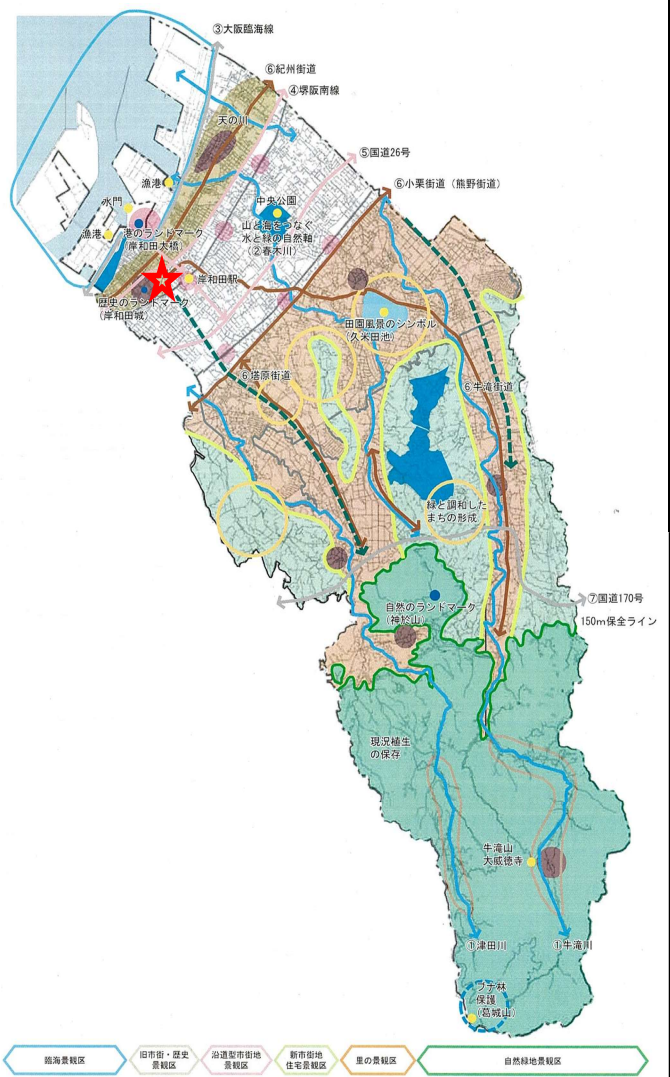
1900年チャニング・M・ウィリアムズ監督(=主教)の管理の下、伝道師三木八十五郎が定住伝道を開始し、岸和田市本町に民家を用いて「日本聖公会岸和田教会」を設立した。レンガの外壁と石畳の道には風情があり、岸和田にレンガ工場が発展していた往年の西洋化の名残が懐かしく、教会ともマッチしている。歴史・文化が次世代へと継承される魅力ある景観である。

⑤ 自泉会館

【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 城内校区



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	旧街道
景観配慮地区	岸和田城周辺

■エピソード 応募 No. 33 「自泉会館」

それは、「失われた近代建築」（講談社）の一冊から始まる。

かつて“大大阪時代”の戦前に、大阪ビルディング（略してダイビル）一号館のロマネスク様式の建築、其の上方にある魑魅魍魎とした動物の顔に心を奪われた。その稀有の建築家の名前は、渡辺節である。当時、最新式のアメリカのビルディング設計をいち早く国内に導入、数々のビルディング、そして名だたる銀行（本店）を建築していった。

現存する建物として、綿業会館、商船三井ビル、旧乾邸、そして、あまり、知られていない“自泉会館”（国有形）。この城下のもとに人知れずたたくむす珍しいスパニッシュ様式の“自泉会館”をもっと多くの人に知ってほしい。この岸和田にあるとは、誇りである。この建築空間をホール、多目的に活用し、未来へ輝いてほしい。（64歳男性）

■講評

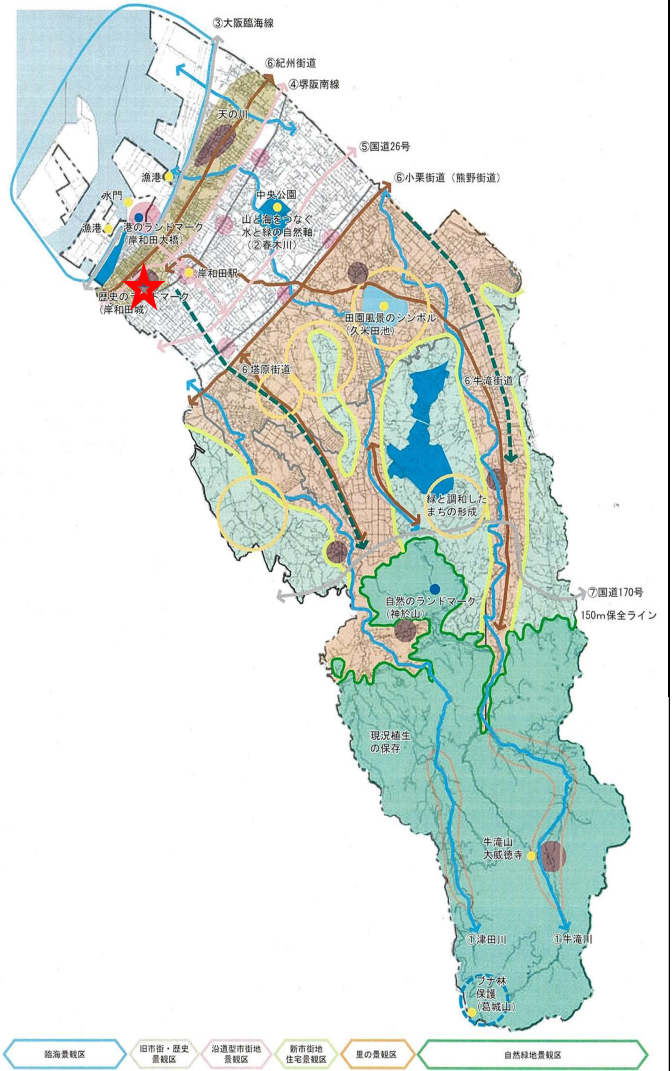
国登録有形文化財になっている自泉会館は、昭和7年に渡辺節の設計により岸和田紡績の社交場として建設された、大阪の綿業会館と同時期のサロン会館である。外観のスパニッシュ様式の建物と緑地のバランスも良く、岸和田の文化を発信し続けている。深く市民生活に溶け込んだ景観である。

⑥ 威風堂々岸和田城

【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 城内校区



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	—
景観配慮地区	岸和田城周辺

■エピソード 応募 No.1 「威風堂々 岸和田城」

大切な人と行った夜の岸和田城が日中と違って感動しました。相方も岸和田城すげいやんって言ってました。(46歳男性)

■講評

岸和田城は千亀利城とも言われ、続日本百名城や、大阪府指定文化財などに指定されており、岸和田のシンボルとなっている。夜に撮られた写真からは、静寂で、水面にも映るライトアップされた岸和田城の貫禄を感じる。季節や時間の移り変わりにより、様々な顔を見せてくれている。市民の思いが詰まった、なくてはならない景観のひとつである。

⑦ 五風荘庭園と家屋

【写真】

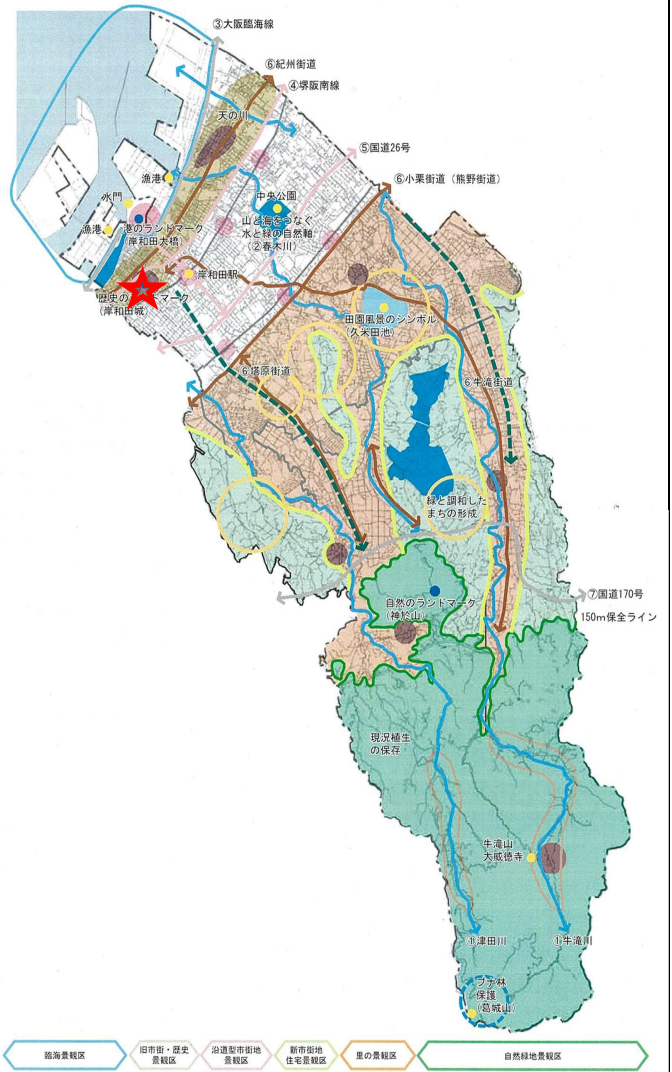


【位置図】 城内校区



【景観誘导图】

1-6



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	—
景観配慮地区	岸和田城周辺

■エピソード 応募 No. 16 「五風荘庭園と家屋」

小学生の頃「寺田の別荘」の荒れ放題の庭を「探検」した思い出がある。今、回遊式庭園は美しく整備され市民に開放されている。岸和田藩新御茶屋跡に建つ延べ300坪の木造家屋（現在は食事どころ）は、庭に配された三茶室とともに匠技の粋を凝らした日本建築。昭和の戦前戦後の激変を生き延びた歴史文化景観と云える。（74歳男性）

■講評

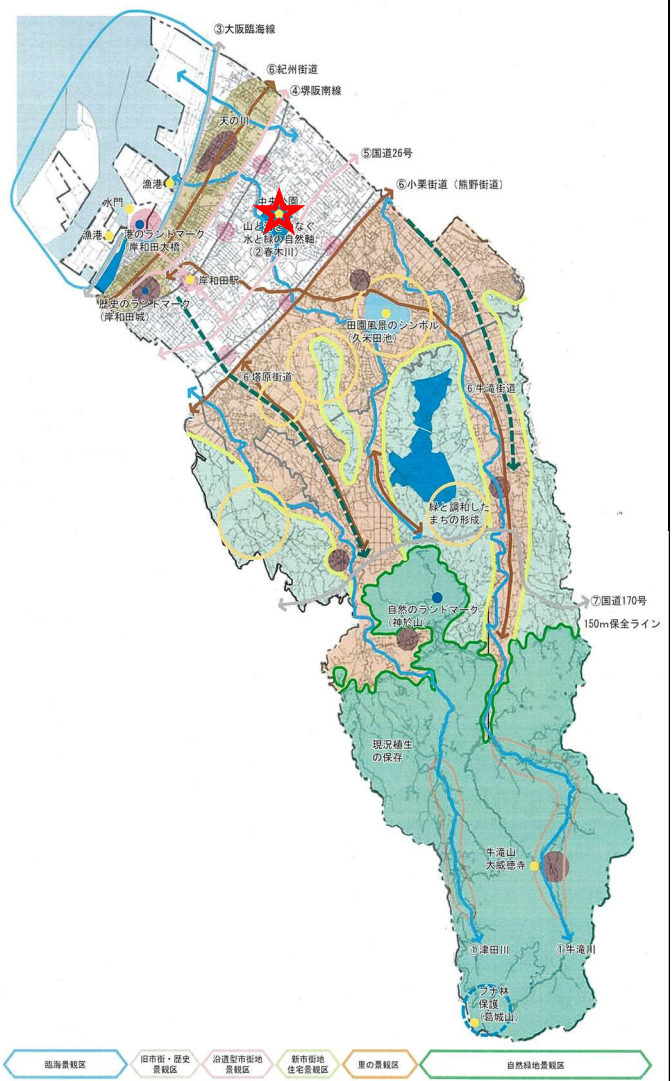
市指定文化財になっている五風荘庭園は、江戸時代の岸和田城主の新御茶屋や薬草園があった場所に寺田財閥が造園した広大な回遊式庭園である。一般に解放されている美しい庭園には、鯉の泳ぐ池と近代日本建築の粋をこらした柱に節のない母屋とが絶妙に配置されており、和風建築と回遊式庭園が織りなす風景は歴史を感じる何とも言えない景観である。

⑧ 旧岸和田村尋常小学校

【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 大宮校区



基本景観区域名	沿道型市街地景観区
景観軸	—
景観配慮地区	—

■エピソード 応募 No. 23 「旧岸和田村尋常小学校」

明治 36 年岸和田城内に造られた最初の小学校校舎。後年城内小学校の南上町移転の後岸城幼稚園他として使用され、昭和 27 年市立図書館のある場所に移転した岸城幼稚園本校舎は、私も通園した思い出深い御殿風校舎です。市制 60 周年を記念して中央公園「紅葉館」として移築復元され、平成 9 年国登録有形文化財となる。(74 歳男性)

■講評

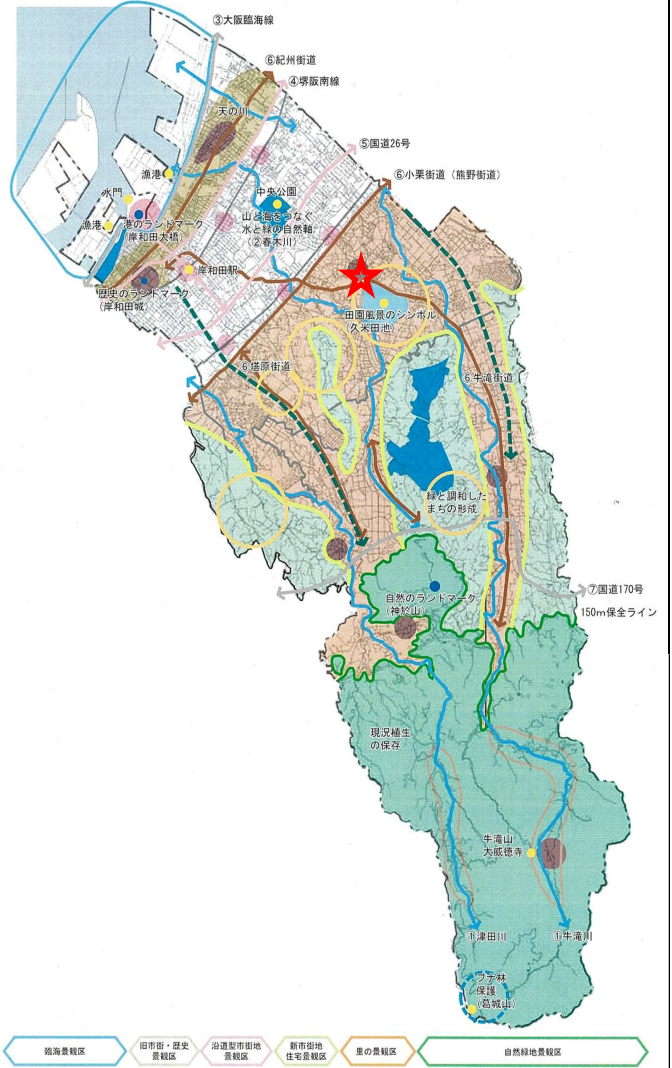
岸和田市で最初の小学校建築である。国登録文化財の旧岸和田村尋常小学校校舎（紅葉館）は、1983 年に現在の岸和田市立図書館の場所からまなび中央公園内に復元移築されたものであり、前面に張り出した立派な造りの玄関が印象的で、様々な教育機関として活躍していたことがしのばれる。歴史のある格調高い建築物であるだけでなく、庭園や小道、水路などの周囲とも良く馴染んでおり、現代につながる歴史を感じていただきたい景観である。

⑨ 久米田寺の多宝塔

【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 八木南校区



基本景観区域名	新市街地住宅景観区
景観軸	—
景観配慮地区	久米田池

■エピソード 応募 No. 39 「久米田寺」
 とても歴史のある素敵なお寺です。
 遠くに住んでいるお友達もよく来ると言っていました^^高校の日本史の授業でも少し勉強し、興味を持って訪れたことが久米田寺と出会ったきっかけです。(17歳女性)

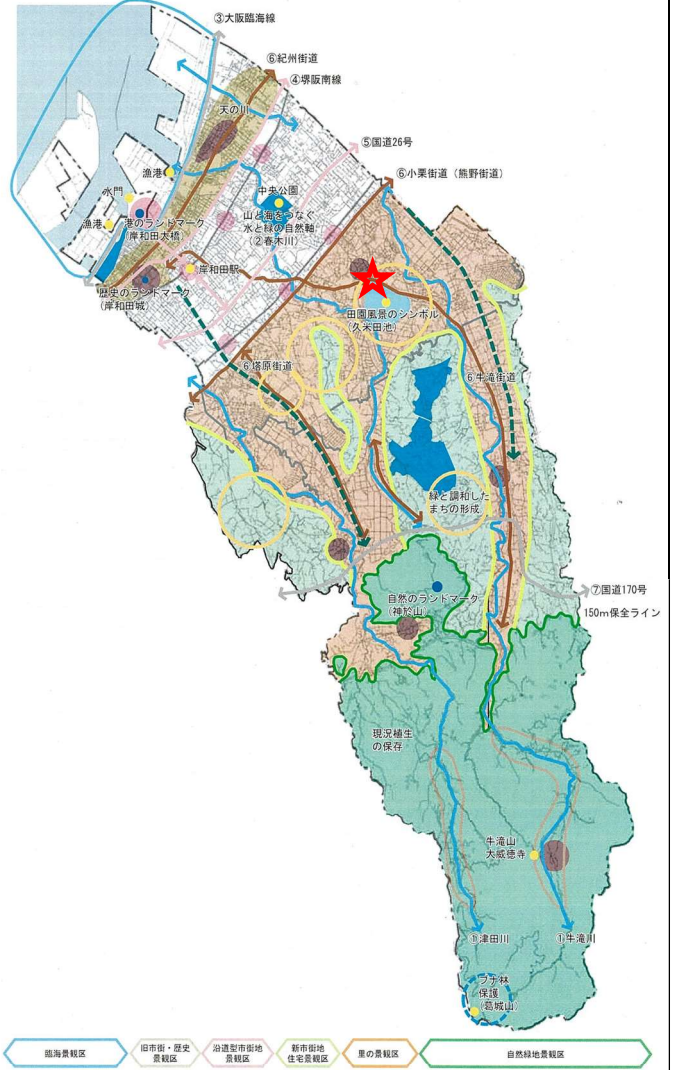
■講評
 久米田寺は、春には桜、秋にはだんじり、お正月にはひとの営み景観でも指定されている「千本搦ぎ」など、行事があるときには賑わいを見せるが、普段は静かな佇まいである。池を見守るように鎮座しているこの多宝塔には、京都の東寺より仏舎利が足利直義により奉納され、遺存していた仏舎利をお祀りしているという。春の陽気と岸和田の歴史を色濃く感じさせる景観になっている。

⑩ 世界かんがい施設遺産の久米田池

【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 八木南校区



基本景観区域名	新市街地住宅景観区
景観軸	—
景観配慮地区	久米田池

■エピソード 応募 No. 36 「世界かんがい施設遺産」

馴染み深い久米田池が、平成 27 年に世界かんがい施設遺産に登録されました。子供の頃は池の水が引いた際にザリガニ取りをした記憶があり、今も多くの鳥の姿が見られます。ため池ならではの池底への階段もあります。昔は周辺に田んぼも多くあり、世界かんがい施設遺産に登録されたことは、灌漑施設として地域の大切な役割を担っていたのだなと改めて感じるきっかけになりました。(39 歳男性)

■講評

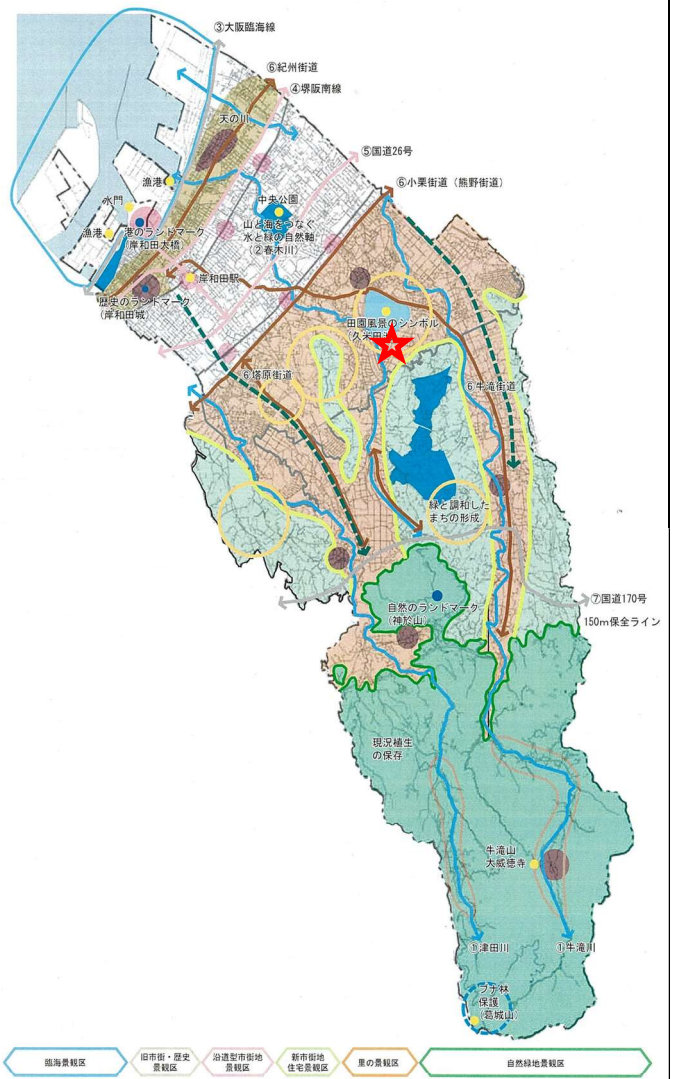
世界かんがい施設遺産とは、かんがい施設の適切な保全に資するものとして、世界で 123 施設（日本で 44 施設）登録されている。久米田池は、長い歴史や多くの人々によって守られてきたことなどから 2015 年に登録された。昔は 3 つの樋から下流の田畑へ配水し恩恵を与えていたが、その役目を終えた樋がモニュメントとして保存されており、ウッドデッキからその樋を近くで見ることができる。

⑪ 小金塚古墳

【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 山直北校区



基本景観区域名	新市街地住宅景観区
景観軸	—
景観配慮地区	—

■エピソード 応募 No. 45 「小金塚古墳」
 黄金塚住宅内に小金塚古墳があります。
 古墳としての規模も小さく、交差点の中に納まっていますが、市の指定史跡に指定されています。(50 歳男性)

■講評
 黄金塚住宅にある交差点には、カップケーキを想像させるかわいらしい形の古墳が納まっている。この古墳は、市の指定文化財となっており、小さいながらも黄金塚住宅のランドマークとして地域の人々の愛着や親しみを感じられる。これからも地域住民に愛される景観として大切にしてもらいたい。

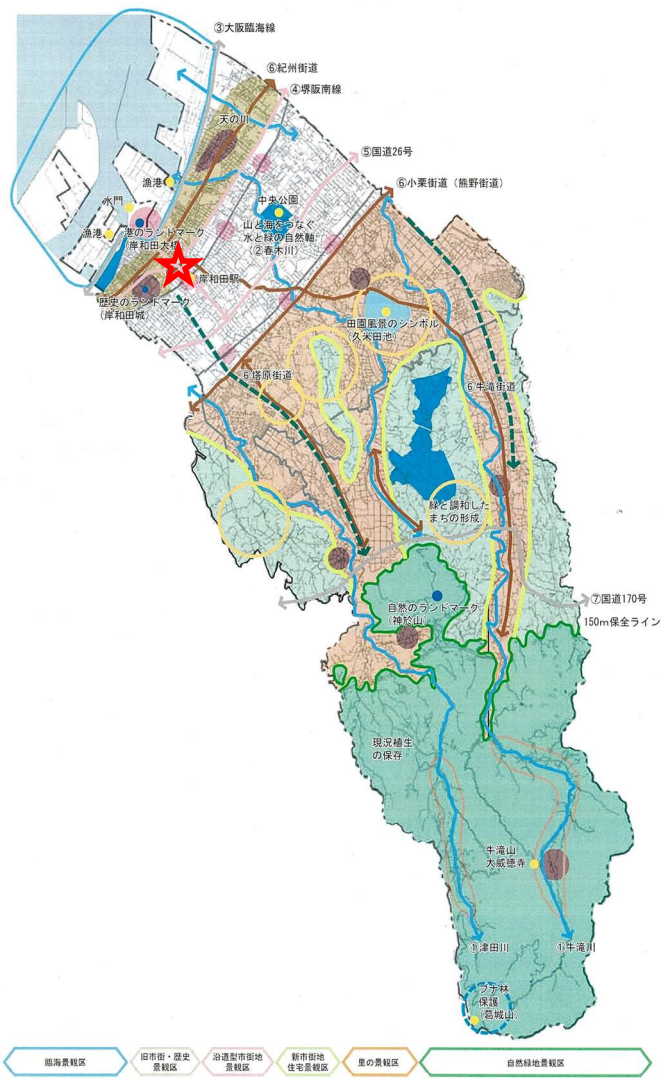
その他 景観

① 岸和田だんじり祭 灯入れ曳行

【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 中央校区



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	—
景観配慮地区	—

■エピソード R4 応募 No. 46「岸和田だんじり祭り 灯入れ曳行」

風土と景観の中に見る素晴らしき灯入れ曳行！こうした時代だからこそ日本の魅力を再認識し未来の発展と環境づくりにと岸和田は輝き続けてください。(84歳男性)

■講評

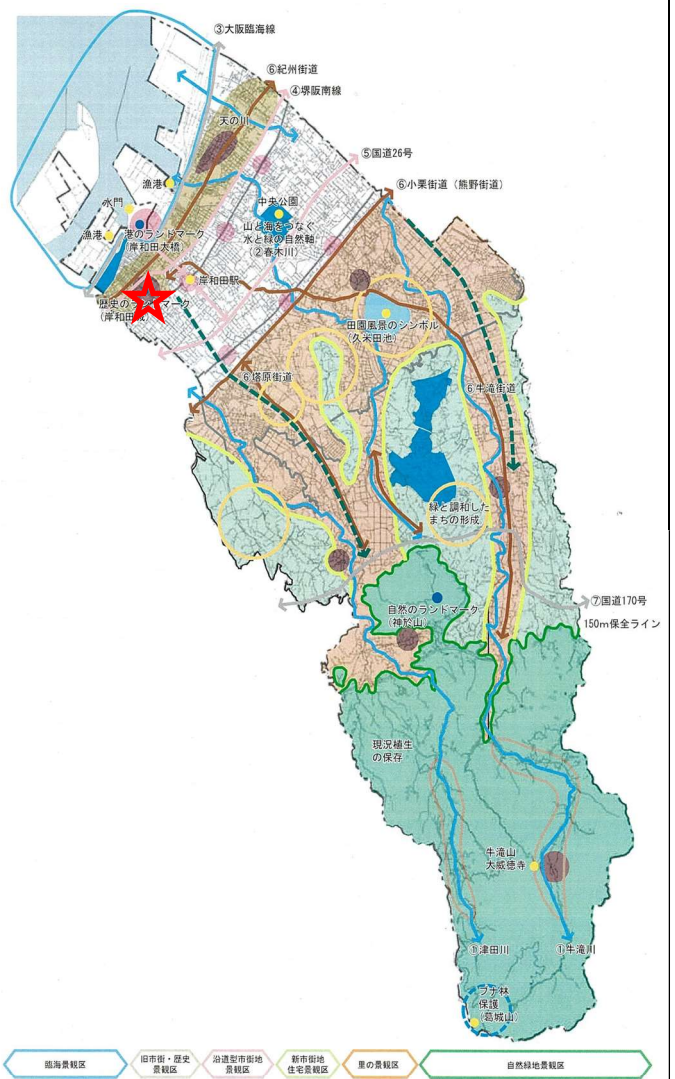
だんじり祭りの夜間曳行では、大小多くの提灯がぶら下げられ、ほのかな明かりでライトアップされた幻想的な光景が見られる。昼間の激しさとは打って変わって、やりまわしもなければ走ることもなく、ゆっくりと街を練り歩く。子どもたちが主役となって、だんじりを曳き、鳴物を響かせ、大工方になり、輝いている姿がある。この灯入れ曳行こそ、だんじり祭りが次世代へと受け継がれていく所以である。岸和田の誇りとして継承すべき景観である。

② 朝霧に包まれた岸和田城

【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 城内校区



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	—
景観配慮地区	岸和田城周辺

■エピソード R3 応募 No. 2 「朝霧に包まれた岸和田城」

その日も市場に野菜の仕入れに行っていましたが、段々と海の方から霧が発生。前方の信号もかすんで見えます。ゴールデンウィーク明けで忙しいのですが、気持ちがはやり、仕入れは簡単に済ませて、岸和田城へ

結果がこの写真です。雪の積もったお城は何度も見た事がありますが、こんな霧に包まれた岸和田城は初めてでした。スマホで数枚撮影しました。数時間後には 見事な晴天になっていました。梅雨入り前に 気温も高くこのような現象が起こったのだと思います。不思議な空間でした。(58 歳男性)

■講評

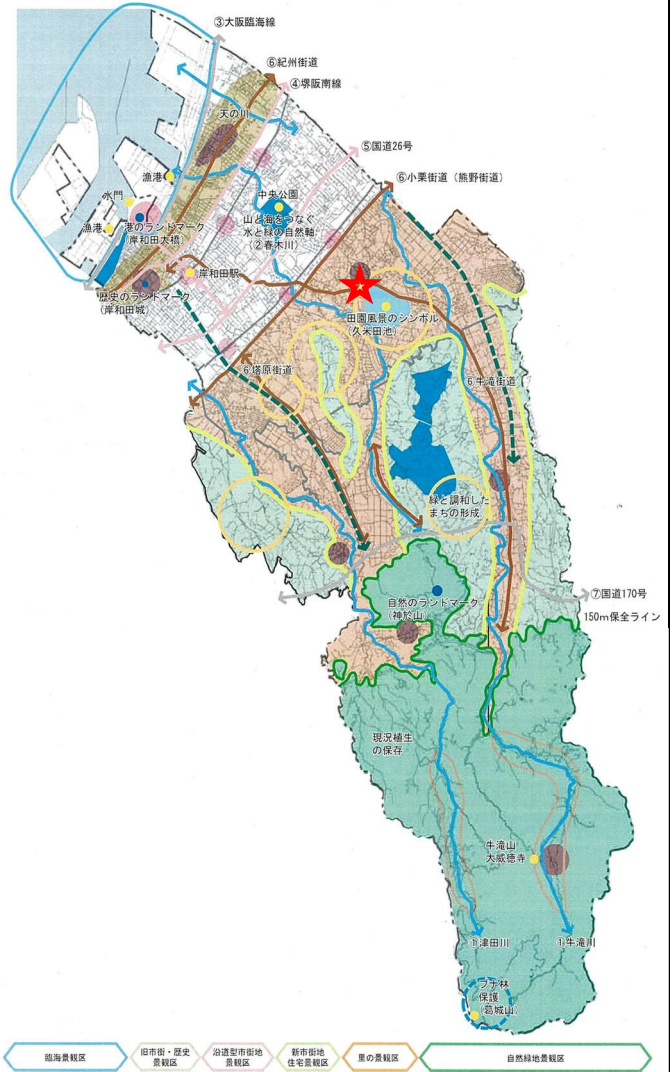
応募いただいた視点場は、お堀の中で最も近くに天守閣を見上げることのできるポイントになっている。散歩や観光で岸和田城へ訪れる方は沢山いるが、朝霧に包まれた岸和田城を眺めることは容易ではなく、岸和田城の見せる幽玄的で貴重な場面を捉えたものと言えるだろう。この他にも、岸和田城には四季折々の景観があり、地域固有の魅力を感じさせる後世に継承すべき景観である。

③ 久米田寺行基参り

【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 八木南校区



基本景観区域名	新市街地住宅景観区
景観軸	—
景観配慮地区	久米田池周辺

■エピソード R4 応募 No.6「久米田寺 行基参り」
寺に13台のだんじりが入る 日本でも珍しい祭り (57歳男性)

■講評

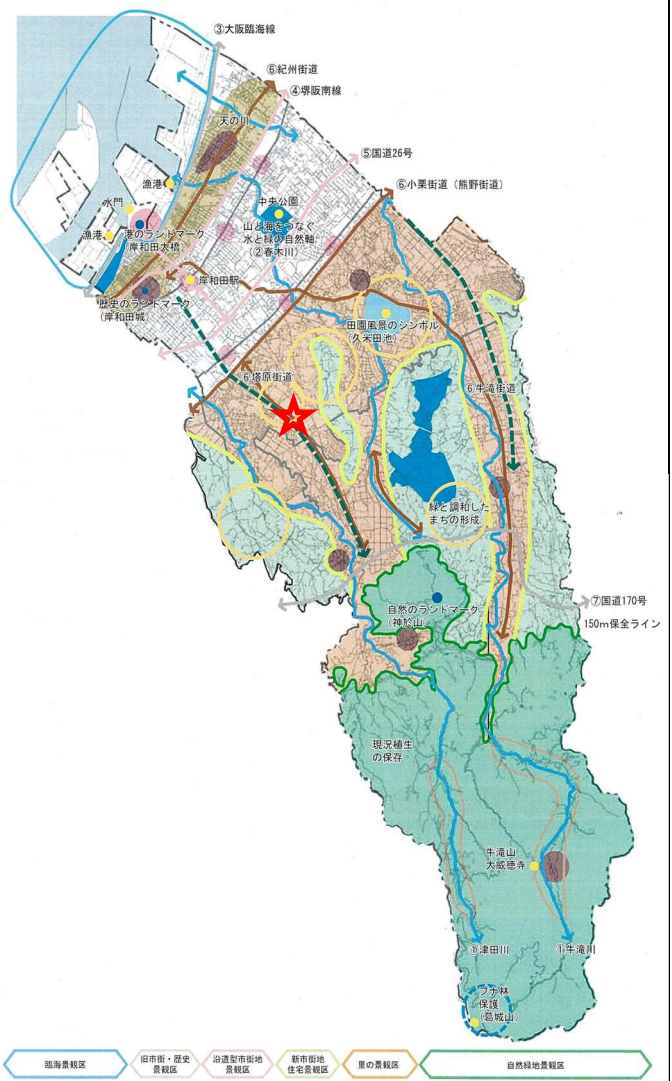
僧・行基は、干ばつに悩む農民のために久米田池を造り、それを管理する施設として久米田寺が造られたとされており、農業用水として地域に恩恵を与えている。境内の奥にある開山堂には、静かに行基菩薩像が祀られている。「行基参り」はその功績をたたえて農業豊作の祈願と感謝をするためのもので、昔からの伝統行事であり、今後も受け継がれていかれるであろう。

④ 玉ねぎの碑

【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 旭校区



基本景観区域名	里の景観区
景観軸	牛滝川・津田川
景観配慮地区	—

■エピソード H30 応募 No. 24 「玉ねぎの碑」
 府道岸和田港塔原線沿いにひっそりと佇む玉ねぎの碑。
 地域の人々により維持され、傍らにはきれいな桜が咲いていました。(48 歳男性)

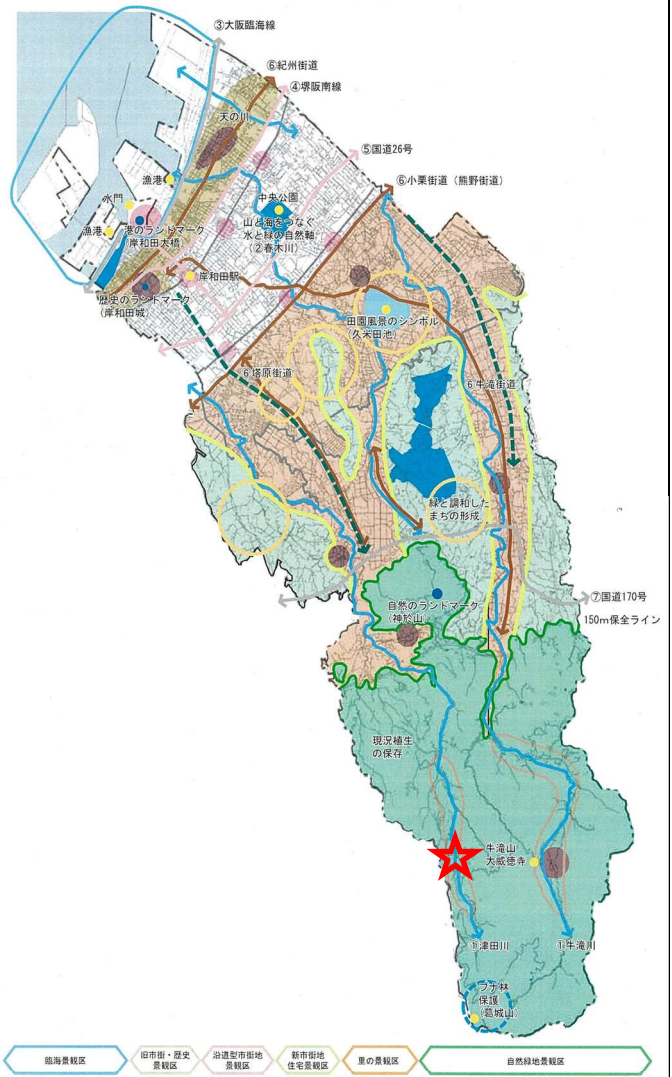
■講評
 明治 15 年頃、全国で初めて玉葱栽培をはじめた坂口平三郎の顕彰碑。以後、泉州一帯で玉葱栽培が盛んとなり、泉州の名産品となった。管理が行き届いていないのが残念であるが、背景となる倉、桜の木、水田、民家等との関係も良く、岸和田の歴史と文化を今に伝える景観である。

⑤ 葛城踊り

【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 葛城校区



基本景観区域名	自然緑地景観区
景観軸	牛滝川・津田川
景観配慮地区	—

■エピソード H31 応募 No. 13「葛城おどり」

国、及び各地方自治体、全国津々浦々の集落も少子高齢化により、今や限界自治体や、集落が広がりつつある。これに伴い、古くからその地域・集落に伝わる伝統芸能も、衰退、また消えゆく運命のものもある。当市の、葛城山麓の真下にある「塔原町」（戸数三十五戸）に伝わる「葛城おどり」無形文化財を紹介したい。盆おどりの一つで、毎年八月十四日、町の中心地の「弥勒寺」の境内に於いて、音頭（車おどり・大山おどり）に合わせ、横笛、舞人は、稚児が花笠を被り、鼓を打ち鳴らし、おどるのである。最盛期は、稚児も十数人居たという。現在は、僅か三名と危機。保存会により、その保存に必死ということである。稚児が跳ね 鼓やさしき 笠おどり 俳号 赤心子（79歳男性）

■講評

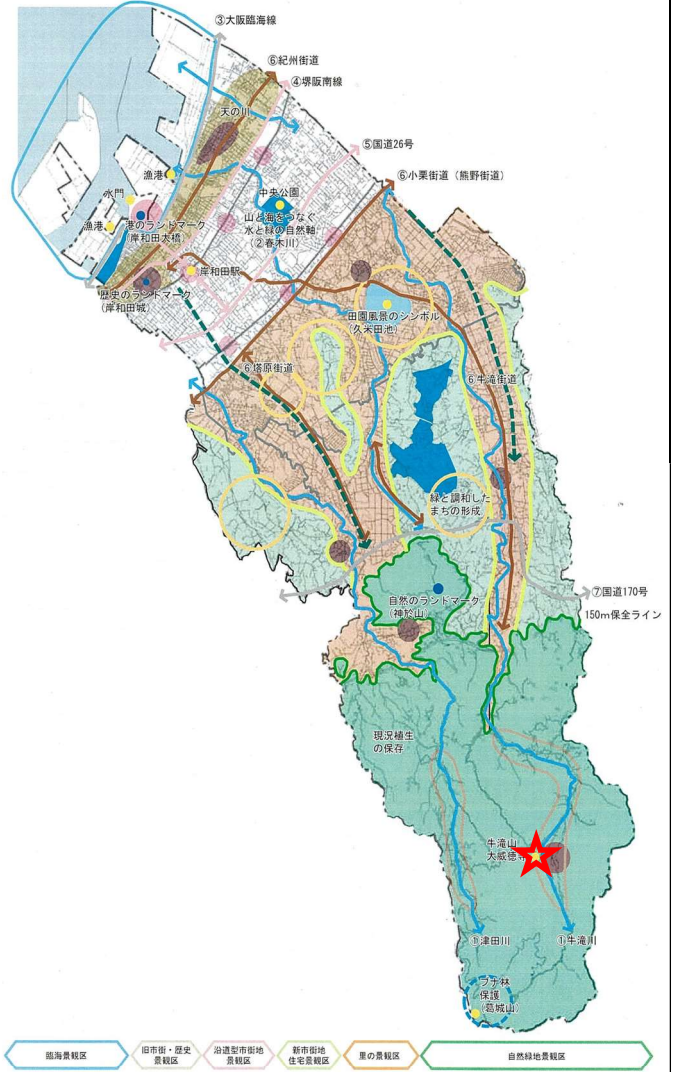
葛城踊りは、和泉葛城山頂に鎮座する八大竜王の氏子である山麓の五か村が、雨乞いや降雨に感謝するために奉納した踊りと言われている。コロナ禍で中止となっていたが、2022年、3年ぶりに葛城踊りが奉納された。美しい衣装を身にまとった子供たちが、囃子や笛に合わせて太鼓を打ち、踊る姿は後世に残したい地域固有の魅力を感じさせる景観である。

⑥ もみいづる大威徳寺

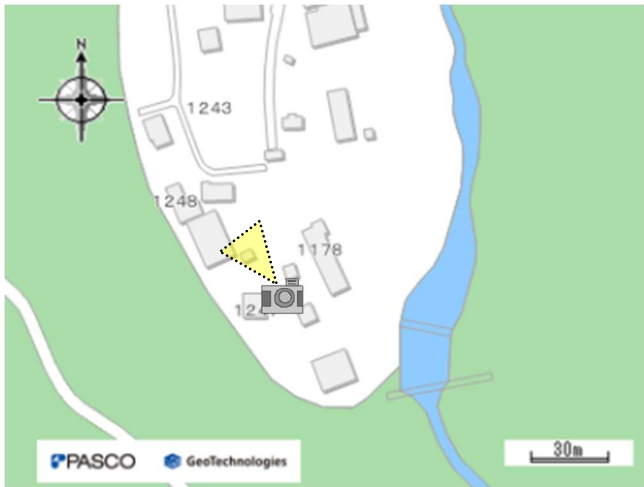
【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 山滝校区



基本景観区域名	自然緑地景観区
景観軸	牛滝川・津田川
景観配慮地区	牛滝山周辺

■ エピソード H30 応募 No. 21 「もみいづる大威徳寺」

昨年岸和田市のイベントで訪れたときに撮った写真です。この角度から見たり写真を撮ったりする人が多い気がします。岸和田市にずっと住んでいますが、紅葉の時の大威徳寺に初めて来ました。まさに岸和田市の紅葉の名所ですね。秋の紅葉はもちろんきれいです。夏も涼しくて気持ちいいです。市内外問わず、たくさんの人に知ってもらいたいと思いました。(22歳女性)

■ 講評

いくつかの滝が見られることで知られている大威徳寺は、大阪府指定文化財に指定されている牛滝山の麓にあり、国指定文化財にも指定されている多宝塔もある。秋になると赤・黄・緑のグラデーションが美しい紅葉を写真におさめようと多くの人で賑わう。どなたにも触れていただきたい岸和田の景観である。

2. 総評

今回実施した「こころに残る景観資源発掘プロジェクト」では、歴史や伝統を感じさせ魅力が感じられるものや、地域の歴史や文化などの風情が感じられるものなどとして、合計47件の「歴史・文化景観」の応募がありました。

例年、多くの市民等に参加していただいている『まちかど審査』では、岸和田のランドマークとなっている岸和田城や久米田寺・池、神於山のほか、歴史・文化というテーマから例年は応募の少ない寺社仏閣など、地域固有の魅力が感じられる景観などを審査していただくことで郷土への愛着と新たな景観の発見に寄与することになったかと思えます。

本委員会では、選考委員会を7月中旬から8月までの期間に計3回実施し、一次審査では現地調査をするにあたってまちかど審査結果も参考にしながら選考基準に基づき選考しました。現地調査では、暑さの厳しい一日となりましたが、円滑に実施できたことと共に、写真のフレーム枠では感じることはできなかった周囲の雰囲気も感じ取ることができました。また、エピソードを確認しつつ現地へ訪れることで、応募者の想いや愛着、そこにある歴史などに触れることもできました。

今後は本プロジェクトを通じて発掘してきた岸和田の優れた景観を活用し、より広く多くの方に岸和田の魅力や賑わいが認知され、継承されていくものとなることを期待します。